D1600V2/D12V2/D16V3について

本書について

本書はD1600V2/D12V2にバージョン・アップすることで追加される新機能、改善点等について説明します。
「D1600取扱説明書」、「D12取扱説明書」の各項目に従って説明しますので、「D1600取扱説明書」、「D12取扱説明書」と合わせてお読みください。
D16、D16V2からD16V3のバージョン・アップについては、以下で説明する内容と一部異なる点があります。p.5の「D16のバージョンアップについて」を始めにお読みください。

本書の記述について

本書は「D1600取扱説明書」、「D12取扱説明書」、「D16取扱説明書」のp.2「取説の記述について」と同様に記述しています。
また、それ以外の表記については以下の通りです。
(→D1600: p.■■)：「D1600取扱説明書」の参照ページを表します。
(→D12: p.■■)：「D12取扱説明書」の参照ページを表します。
(→D16: p.■■)：「D16取扱説明書」の参照ページを表します。
(→D16V2: p.■■)：「D16V2バージョン・アップ・ガイド」の参照ページを表します。

バージョン・アップについて

システムのバージョン・アップについては、取扱説明書に記載されている“システムのバージョン・アップ”(→D1600: p.139、D12: p.135、D16: p.107)をお読みください。

追加・変更

CD-R/RWへの8倍速書込み

コルグ純正のCD-R/RWドライブ CDRW-1（8倍速書込み対応）/CDRW-2（8倍速書込み対応）を使用し、CD-R/RWメディアへの8倍速書込が可能になりました。
オーディオCD作成、WAVファイルのエクスポート、ソングのバックアップの書込みができます。

※ 8倍速書込みに対応しているCD-R/RWメディアを使用してください。

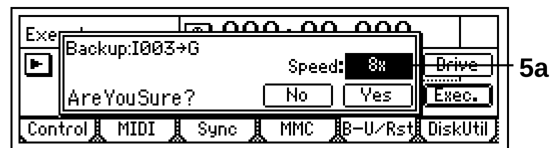
バックアップ時のCDの8倍速書込み

CD-R/RWへのバックアップ時に8倍速、6倍速書込みが可能になりました。

“B-U/Rst”タブ・ページに追加
(→D1600: p.77、D12: p.78、D16V2: p.7)

5. Exec. ....

バックアップを実行します。
“Source”の1ソングを“Destination”のドライブにバックアップします。このときにエフェクト・ユーザー・データもバックアップされます。



5a. Speed ....**[1x, 2x, 4x, 6x, 8x]**

CD-R/RWへのバックアップ時に、書込み速度を設定することができます。
8x: 8倍速で書込みを実行します。
6x: 6倍速で書込みを実行します。
4x: 4倍速で書込みを実行します。
2x: 2倍速で書込みを実行します。
1x: 等速で書込みを実行します。
“AreYouSure?”表示後“Yes”ボタンを押すと、バックアップを開始します。

“8x”で使う場合にはコルグ純正のCD-R/RWドライブCDRW-1（8倍速書込み対応）/CDRW-2（8倍速書込み対応）と、8倍速書込みに対応したメディアを使用してください。ご使用のハードディスクやCD-R/RWドライブなど、使用環境によっては4倍速以上でのバックアップに、失敗する場合があります。そのようなときには、“2x”に設定してご使用ください。

ドライブが対応していない書込み速度は、選択することができません。

外部SCSI接続のドライブは4倍速までしか選択することができません。

note 書込み中に“Abort”ボタンを押すと、書込みが中止され、不完全なディスクになります。CD-RWの書込み中に“Abort”ボタンを押すと、書込み途中のデータは消去されます。

CD-R/RWへのバックアップ時の自動コンペア機能

CD-R/RWへのバックアップ時、自動的にコンペア（データの照合）を行い、不正なバックアップCDが作成されることを防止します。

オーディオCDの連続作成

オーディオCD作成時に一時的に作られるイメージ・ファイルを残す仕様に変更し、連続して複数のCDに書込めるようになりました。

SONG :“CDR/RW”タブ・ページを変更
(→D1600、D12: p.91、D16: p.63)

5. WriteToCD ....

CD-R/RWへの書込みを実行します。“WriteToCD”ボタンを押すと、“Obey Copyright Rules”(著作権にしたがってください)というメッセージが表示されます。「著作権について」(→D1600、D12: p.1)をよく読んで、許諾条件に同意の上で使用してください。

5a. WriteSpeed ....[1x, 2x, 4x, 6x, 8x]

CDの書込み速度を設定します。

8x: 8倍速で書込みを実行します。
6x: 6倍速で書込みを実行します。
4x: 4倍速で書込みを実行します。
2x: 2倍速で書込みを実行します。
1x: 等速で書込みを実行します。

“AreYouSure? ”表示後“Yes”ボタンを押すと書込みを開始します。

note オーディオCD作成時に一時的に作られるイメージ・ファイルの作成時間は、書込み速度を変更しても変わりません。

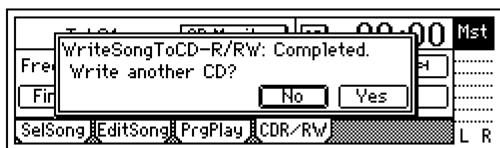
“8x”で使う場合にはコルグ純正のCD-R/RWドライブCDRW-1(8倍速書込み対応)/CDRW-2(8倍速書込み対応)と、8倍速書込みに対応したメディアを使用してください。ご使用のハードディスクやCD-R/RWドライブなど、使用環境によっては4倍速以上での書込みが、失敗する場合があります。そのようなときには、“2x”に設定してご使用ください。

ドライブが対応していない書き込み速度は、選択することができません。

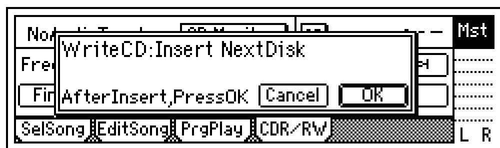
外部SCSI接続のドライブは4倍速までしか選択することができません。

note 書込み中“Abort”ボタンを押すと、書込みが中止され、不完全なディスクになります。

書込み終了後、以下のメッセージが表示されます。同じソングを別のCDメディアに書き込む場合、“Yes”ボタンを押してください。同じソングを書き込まない場合“No”ボタンを押してください。



“Yes”ボタンを押した場合、以下のメッセージが表示され、CDドライブがイジェクトします。別のCDメディアを挿入し、“OK”ボタンを押してください。



CD-R/RWへのWAVファイルのエクスポート

WAVファイルをCD-R/RWメディアへエクスポートすることが可能になりました。ISO9660レベル1フォーマットとして書込みます。

note 「グリニッジ標準時(GMT)からの時差」の設定には対応していません。コンピューターやOSの種類によってはWAVファイルの更新日時が正しく表示されないことがあります。

複数WAVファイルのエクスポート

WAVファイルをエクスポートするときに、同時に2トラック以上のクリップボード・データを、複数のモノラルWAVファイルとしてエクスポートすることが可能になりました。

TRACK :“Export”タブ・ページを変更

(→D1600、D12: p.91、D16V2: p.11)

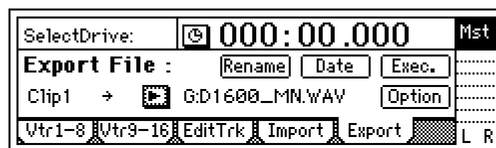
クリップボードにコピーしたオーディオトラックのデータを、外部SCSIドライブやCD-R/RWドライブにWAVファイルとして出力することができます。

24bitモードのクリップボード・データをエクスポートする場合、16bit/24bitの選択ができます。このとき16bitを選択した場合、ディザ処理を加えるかどうかを選択することができます。

note ディザ処理を行うと、量子化雑音が目立たなくなります。

note 外部SCSIドライブ(CD-R/RW以外)使用時、FAT16のDOSフォーマットに対応しています。(→SYSTEM:“DiskUtil”タブ・ページの“Format/DOS”参照)

note CD-R/RWへのWAVファイルエクスポート時、ISO9660レベル1フォーマットに対応しています。



3. Rename ....

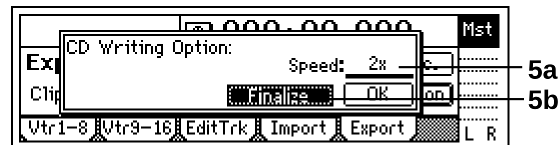
“Rename”ボタンを押してダイアログを表示し、WAVファイル名を設定します。WAVファイル名は最大6文字まで入力できます。

note ファイル名の7文字目、8文字目には、エクスポートするトラック数によって、以下の文字が自動的に入力されます。

MN: 1トラックエクスポートする場合(モノラルファイル)
ST: 2トラックエクスポートする場合(ステレオファイル)
01: 4トラック以上エクスポートする場合は01〜16の番号が自動的に付けられます。(モノラルファイル)

5. Option ....

CD-R/RWへのWAVファイルエクスポートの設定を行います。
* 対象ドライブがCD-R/RW時のみ



5a. CD WriteingSpeed ....[1x, 2x, 4x, 6x, 8x]

CDの書込み速度を設定します。(→[SONG]“CDR/RW”タブ・ページ“WriteSpeed”参照)

5b. Finalize .... [On/Off]

CD-R/RWへのWAVエクスポート機能は追記が可能ですが、今回の書込みを最後にもう追記しない場合に、この項目をオンにします。初期のCD-ROMドライブなど一部のドライブでは、CDをファイナライズしないと正常に読み込めない場合があります。

CD-R/RWメディアに追記する容量が残っていない場合は、自動的にファイナライズを実行します。

“ DiskUtil ” タブ・ページに DOS フォーマット、CD-RW イレースの追加

WAVファイルをエクスポート時に必要となる、外部SCSI機器のDOSフォーマット(FAT16)が本機で可能になりました。
また、[SONG]“ CDR/RW ”タブ・ページにあるCD-RWのデータを消去するための“ Erase ”ボタンを“ DiskUtil ”タブ・ページにも追加し、イレース操作には完全消去/高速消去の選択が可能になりました。

SYSTEM: “ DiskUtil ”タブ・ページに追加

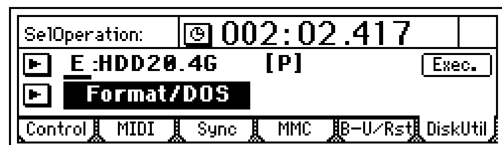
(→D1600、D12: p.79、D16V2: p.6)

4. SelOperation .... [EjectRMD, CheckDrive, Initialize, Format, LoadSystem, Format/DOS, EraseCD-RW]

Format/DOS: 外部SCSI機器のDOSフォーマット(FAT)を実行します。

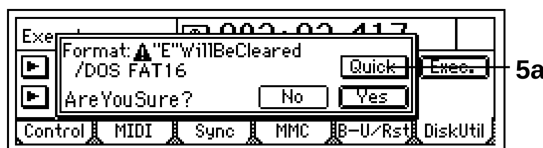
“ Format/DOS ”を実行すると、そのドライブのデータはすべて失われます。

現在選んでいるソングのドライブに対して、“ Format/DOS ”を実行することはできません。



5. Exec. ....

DOSフォーマットを実行します。



5a. Quick SW .... [On/Off]

DOSフォーマットのタイプを選択します。

On: メディアがすでに物理フォーマットされている場合に選択します。システム領域の初期化だけで済むので、あまり時間がかかりません。

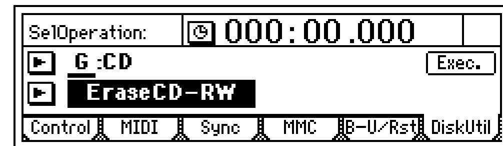
Off: 物理フォーマットされていないメディアに対して、フォーマットをする場合に選択します。

“ Quick ”を“ Off ”でDOSフォーマットすると時間がかかります。100MBのZIPに“ Quick ”を“ Off ”で“ Format/DOS ”を実行した場合、約10分かかります。

EraseCD-RW: CD-RWメディアに書き込まれた情報を消去します。
消去を行うことでブランクメディアとして、再び全容量を使うことができます。

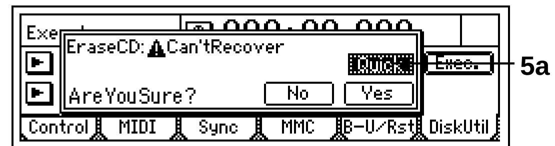
“ EraseCD-RW ”を実行すると、そのメディアのデータはすべて失われます。

CD-RW以外のドライブに対して、“ EraseCD-RW ”を実行することはできません。



5. Exec. ....

CD-RWの消去を実行します。



5a. Quick SW .... [On/Off]

CD-RWの消去のタイプを選択します。

On: CD-RWメディア全体を高速消去します。トラック情報に関連する部分だけを消去することで、短時間で初期化ができます。書込みに影響することはありません。通常はこちらを選択します。

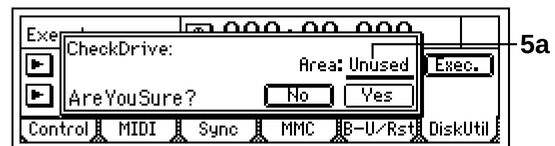
Off: CD-RWメディア全体を消去します。書込み済みの内容はすべて失われます。

CheckDrive にオプションを追加

ディスクユーティリティの“ CheckDrive ”は、全領域をチェックする“ Full ”、現在選択中のソングをチェックする“ CurSng ”、これから録音で使用する領域をチェックする“ Unused ”の3種類から選べるようになりました。

“ DiskUtil ”タブ・ページの“ CheckDrive ”を変更

(→D1600: p.80、D12: p.79、D16: p.48)



5a. Area .... [Unused, Full, CurSng]

チェックドライブで、チェックする領域を指定します。

Unused: これから使用される2GB分の未使用領域をチェック、修復します。

Full: 全領域をチェック、修復します。

CurSng: 現在選択されている1ソングの使用領域をチェック、修復します。

チェックドライブには、時間がかかります。“ Area ”が“ Full ”時は、およそ以下の時間がかかります。
6.0GB: 約100分、**20GB:** 約240分 (内蔵ハードディスク・ドライブ使用時)

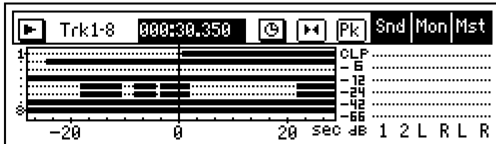
チェックドライブ後も“ DiskBusy ”が発生する場合は、[TRACK]“ EditTrk ”タブ・ページの“ OptimizeTrack ”を実行して、トラック・データを最適化する必要があります。

スタジオ等での重低音による振動で“ DiskBusy ”が発生する場合があります。この場合はチェックドライブを実行する前に、本体の設置場所を変えるなどして回避してください。

トラック・ビューの変更

トラック・ビュー表示時に、常に現在の時刻が中心となるように表示します。プレイ中は、オーディオイベントが右から左にスクロールします。またスケール変更ボタンを追加し、より広いの範囲を表示できるようになりました。

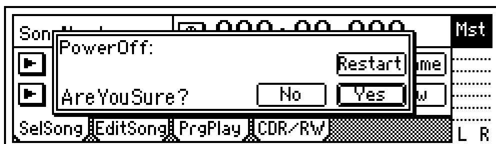
"SelectDisplayMode"で"TrkView1－8"、"TrkView9－16"、"TrkView1-16"を選んだときの画面を変更
(→D1600、D12: p.111、D16: p.85)



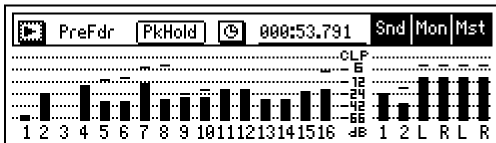
ScaleChangeSW .... [(5, 10, 20, 40)]
トラックビューの表示範囲を変更します。ボタンを押すたびに、5sec ～ 40secの間で拡大/縮小を繰り返します。拡大時はボタンの表示が"◀▶"となり、縮小時は"▶◀"となります。
5sec: 現在のロケートから前後５秒程度を表示します。
10sec: 現在のロケートから前後10秒程度を表示します。
20sec: 現在のロケートから前後20秒程度を表示します。
40sec: 現在のロケートから前後40秒程度を表示します。

●操作性向上のために以下の項目を変更しました。

・リスタートボタンの追加
電源終了時、再起動させるリスタートボタンを追加しました。これにより、ハードディスク容量の復帰のためのアンドゥ・データのクリア、SCSIデバイスの再スキャンが可能です。



・多段階レベルメーター
レベルメーター表示がより滑らかな表示になりました。



・波形画面でのカウンター表示の仕様変更
テンポトラック使用時に、カウンターの設定が小節表示(MBT)の場合、波形画面では自動的に時刻表示(MSM)に変更するようになりました。これにより、スムーズに波形をスクラブすることができます。

・長時間録音データ時のロケート時間を短縮
内部のサウンド処理を最適化し、長時間録音したソングのロケート操作がよりスムースになりました。

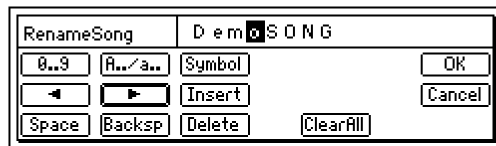
・WAVファイルの再プレビュー時間を短縮
WAVファイルプレビュー時、一度プレビューしたファイルと同じファイルをプレビューする場合、ファイルの再読み込みせずに、瞬時にプレビューするようになりました。

・ソング変更時のモニターバス設定の仕様変更
ソングを変更したときにモニターバス設定を初期化しないように変更しました。これにより、リズム・クリック等をモニターで聞いていたときの設定を、他のソングでも使用することができるようになりました。

・オーディオCD作成時の再生機能について
新CD-R/RWドライブ・オプションに対応するため、ファイナライズ前のCD再生機能を廃止しました。

・"DiscChanged"表示の廃止
CDドライブを使用する操作時に、CDが入れ替えられたことを告知する"DiscChanged"の表示を廃止しました。これにより、スムーズに作業を進めることができます。

・リネーム画面の仕様変更
アルファベットボタンと数字ボタンの位置を入れ替え、カーソルの上下操作のみでアルファベットボタンと"▶"ボタンを選択できるようにしました。D12の操作性が向上しました。



・波形画面でのカーソル移動仕様変更
カーソル操作の上下方向の動作仕様を変更しました。ロケートカウンターにカーソルがあるときに、カーソルの上下操作で時間軸の拡縮ボタンを選択できるようにしました。D12の操作性が向上しました。

D16のバージョン・アップについて

D16V2からD16V3にバージョン・アップすることで、ここまでに説明した内容に加え、以下の内容が追加、変更されます。
D16からバージョン・アップされる方は、D16V3のバージョンに、D16V2のバージョン・アップ内容も含んでおりますので、「D16V2バージョン・アップ・ガイド」も合わせてお読みください。

・波形画面の大型化

波形表示画面（Scrub、EditTrk、AutoPunch、Loop）での波形表示を大きくし、より視覚的に波形を確認できるようになりました。また波形の拡大/縮小ボタンで、波形を1サンプル単位まで、細かく表示するようになりました。

・オーディオCD作成時に4倍速書き込みが可能
・CDへのバックアップ時に4倍速書込みが可能

外部CD-R/RWドライブを使用し、オーディオCDの作成時とバックアップを行うときに、4倍速書込みが可能になりました。
内容については、「D1600/D12 追加と変更」を参照してください。ただし、D16、D16V2ではCD-R/RWドライブが外部SCSI接続のみであるため、4倍速までの対応になります。
※ ご使用になるドライブとメディアが、4倍速書込みに対応している必要があります。

・エラー・メッセージの追加

以下のエラー・メッセージを追加しました。

Can't Play CD

□ オーディオCDの再生ができませんでした。
→ ファイナライズをしていないCDの場合、ファイナライズをしてから再生してください。
→ ファイナライズ済みの場合、ドライブの接続を確認してください。接続、動作に異常がない場合には、メディアを交換してみてください。

Disc Full

□ オーディオCD書き込み時、CDの容量が足りません。
→ 新しいCDメディアに書き込んでください。

Track Full

□ オーディオCD書き込み時、CDに書き込んだトラック数（曲数）が**99曲**を越えてしまっています。
→ 新しいCDメディアに書き込んでください。

Write CD Failed

□ CDの書き込みに失敗しました。
→ CD-R/RWへの書き込み速度を、低く設定してください。
→ お使いのドライブに、推奨されているメディアを使ってください。

□ 外部SCSIドライブからCDへ書き込もうとする場合、転送速度が足りない場合があります。
→ 外部SCSIドライブのデータを内部ハードディスクにコピーして、内部ハードディスクから書き込みを実行すると、書き込みが成功する場合があります。
→「故障とお思いになる前に」の“ CD-R/RW ”をお読みください。

Obey Copyright Rules

□ デジタル入力使用時、またはオーディオCD作成時に、以下の「著作権について」をよく読んで、著作権規則に従ってください。

著作権について

本製品は、あなたが著作権保有者であるか、著作権の保有者から複製許諾を得ている素材を使用することを目的としています。あなたが著作権を所有していない、または著作権保有者から複製許諾を得ていない場合は、著作権法の侵害となり、損害賠償を含む補償義務を負うことがあります。あなた自身の権利について不明確なときは、法律の専門家に相談してください。